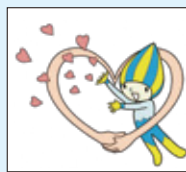


ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します！



第25号
令和2年9月発行

清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部県民生活課
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市数田南 2-1-1 (県庁 6 階)
電話 058-272-8199

32 下米田地区まちづくり協議会 (美濃加茂市)

活動地域：美濃加茂市下米田地区 事務局：下米田交流センター 会長：大山 治夫

地区の概要

下米田地区は、美濃加茂市の最も東に位置し、飛騨川により他の市域から分断されている。

可児市や加茂郡に近いことから、独特の生活圏を形成。近年、生活基盤整備や道路整備が進み、商業店舗や個人医院の開業や個人住宅の増加により、地域の発展と人口増加が勢いを増している。地元ではこの地域のことを「よなだ」と呼んでいる。

【地区のデータ】世帯数：2,247世帯 人口：5,903人 地区の高齢化率：26.55% (令和2年4月1日現在)

会の概要

設立：平成29年3月

組織：「健康福祉部会」「交通防犯環境防災部会」「子育て教育部会」「歴史文化部会」「若者雇用・産業観光部会」の5部会で構成されている。

経緯：平成27年に活動準備会を立ち上げ、まちづくりを基本から学び、平成28年に自治会を通じ年代別にアンケートを実施。その結果をもとに、平成29年度から5年間を期間とするまちづくりビジョンを策定し、まちづくり協議会を設立した。

主な取り組み

●「仮面ヨナダー」への登録制度

仮面ヨナダーとは、よなだを愛するよなだの味方。

「まちを愛し守る人」の意味を込めたイメージキャラクター「仮面ヨナダー」を考案し、よなだを愛する人に登録をお願いしている。

登録をすると、講座やイベント等の情報が届き、「よなだを楽しむ会」として交流できる。



●「よなだより」の定期刊行

「よなだから」と「よなだのたより」というふたつの意味を持つ情報誌「よなだより」を自治会に加入している全世帯に配布し、下米田地区の魅力を発信している。

●まちづくりビジョンに沿った各部会の主な活動

- 健康福祉部会は、健康で元気なまちを基本に、健康増進体力向上を目指してノルディックウォーキング講座を開催
- 交通防犯環境防災部会は、安心安全に暮らせるまちを基本に、通学路防犯灯点検やよなだクリーン大作戦を開催
- 子育て教育部会は、まちじゅうみんなで自然を生かした子育てを基本に、地域で支える環境づくり活動を実施
- 歴史文化部会は、伝統と歴史が残る里山のあるまちを基本に、「ぶらよねだ」と題した歴史探訪講座を開催
- 若者雇用・産業観光部会は、若者が住みたい・住み続けたいまちであり、美しい自然を生かした産業・観光を基本に、地域の魅力創造活動として健康福祉部会と市農林課の協力のもと、米田白山の調査やふもとにあるさくらの森公園のライトアップを開催

☆その他、各部会で竹灯籠作り・花餅作り・漬物作り・包丁研ぎ講座などを開催

☆講師は、講座にあった分野で主に地元の方が、引き受けている。

☆会のホームページでは、仮面ヨナダーがよなだの史跡や行事などを「よねだところどころ」として連載している。



ノルディックウォーキング



よなだクリーン大作戦



さくらの森公園ライトアップ



ぶらよねだ

課題と今後の展望

- 各部会が企画した行事などへの参加者が固定化しているため、仮面ヨナダーへの登録者数を増やし活動の充実を図りたい。
- 5年計画の3年目であるまちづくりビジョンの更なる実現のため、よなだを楽しむという仲間づくり活動の第1ステージから、まちの課題をどう解決していくかという第2ステージに向かう。クリーン大作戦では、やりたいと思いつつも、一人ではできないことが実現できたように、地域の人々の思いと活動が合えば課題は解決できる。いかにこちらからきっかけを作るかが重要である。
- 例えば、農業は盛んだが担い手が不足しているという課題には、生産者が採れたての物を持ち寄り、青空市場のように販売することを構想中である。
- 米田白山を地区の象徴にするため、下米田側にある遊歩道を牧野側からも整備することを決定している。



まちづくりビジョン

目指す将来像

- よいところいっぱい (生活環境・自然・農作物・歴史文化・住みやすさ)
- なかが集う (地区の人同士のつながりが強い)
- だれもが好きな下米田 (子どもから大人まで、このまちが好き)



米田白山から望む下米田

牧野からは、北側
下米田町からは、東側
米田白山がよなだに四季を告げる

★ホームページアドレス:<http://shimoyoneda.com/>

★仮面ヨナダー登録はこちら →



「登録フォーム」

取材を終えて

下米田地区は、住民の80%~90%の人が住みよいと回答しており、地元を離れる人も少ない。ベテラン世代と共に、30代40代の若い世代も役員を担っている。まちづくりビジョンの策定を先行させ、それに向かって活動を進めていくにあたり、いかにこちらからきっかけを作るかが重要であると話される様子には地元を思う強い意志がうかがえました。

関係者の皆様にはお忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

地域の課題解決応援事業をご活用ください!

自治会・まちづくり協議会など地域住民主体の団体を対象に、防災、防犯、福祉、まちづくり活動など、身近な地域の問題や課題の解決につながるヒントを提供する専門家をアドバイザーとして派遣したり、地域住民の間で課題を洗い出し共有するワークショップを行う場合のファシリテーターを派遣するなど、要望に応じて課題解決の応援をします。

例えば…

- 高齢者に地域で生き生きと活躍してもらうための講座を開きたい!
- 地域で防災について学びたい!
- まちづくり活動を活発にしていきたい!

講師の派遣費用は
県が負担します!



詳しくは、ホームページ検索サイトで

地域の課題解決応援事業

検索